

2016 年 3 月 20 日 「真のお母様と母国日本天一国プロジェクト・ナビ」
石川祐司教会長

＜訓読のみ言＞

『真父母經』

第二編 真の父母様の聖誕と召命 第二章 真のお母様の聖誕

第二節 真のお母様の家系

真のお母様の母方の祖母である趙元模おばあさんは、趙漢俊の直系の子孫です。中国の使節が来るというので、趙漢俊おじいさんが私財をはたいて撻来江(タルレガン:平安北道定州)に橋を架けたのです。

おじいさんは、橋を造るのに全財産を使い果たし、銅錢三文だけが残ったそうです。その残ったお金でわらじを買って眠りにつきました。すると夢に白い服を着たおじいさんが現れて「漢俊よ、お前の功績は大きい。お前の家門に天子を送ろうとしたが、残しておいた三文錢が天に引っ掛かったので王女を送ろう」と言ったというのです。撻来江に行ってみると、丘の上に石の弥勒仏ができていたといひます。

p.138-5 橋の竣工後、撻来江の川岸の土の中から、石の弥勒仏が勢いよく出てくると、村人は小屋を造り、雨風を浴びないようにしました。不思議なことに、この弥勒仏はおなかがふっくらと出ていました。問題は趙氏一族に生まれた娘たちもみな、弥勒仏のようにおなかが出て、結婚もしていない乙女が、妊娠していると誤解を受けたことです。

『真の御父母様の生涯路程⑩』

趙氏おばあさんの家の先祖は、神様を知らなくても、民として国の願いに従って生きようとした先祖だったのでありそれゆえに天が記憶することができる祝福された家庭だったのです。

『真父母經』

1991年に、お父様と北朝鮮に行ったとき、そのようなものがあるかと聞いてみました。すると、まだその弥勒はあるということでした。…天の王女を送ると約束し、国のための精誠を記憶し、忠誠の家門で私が生まれるようにしたというのです。再臨のメシヤの相對を育てるための神様の環境創造が、趙漢俊から始まり、私まで連結されたのです。皆さんが天のみ前に精誠を尽くしたものは、必ず天が記憶してくださいます。